



高等研究院



名古屋大学 未来社会創造機構
INSTITUTES OF INNOVATION FOR FUTURE SOCIETY

第2回 名古屋大学 イニシアティブ・ウェビナー

第4回名古屋大学高等研究院ウェビナーと第11回NLSセミナーの併催
叡智を結集し、未来社会を先導する研究者たち

身体性と 先端技術の対話

2021

12.13(月)

13:00-15:30

Zoomウェビナーによるオンライン配信

13:00 - 13:05 司会挨拶 湯川 博 未来社会創造機構
13:05 - 13:10 開会挨拶 佐宗 章弘 未来社会創造機構長
13:10 - 13:15 「基礎と応用の未来」 杉山 直 副総長

13:15 - 13:35 樋口 諒 高等研究院YLC特任助教
「三次元計測を用いてビザンティン聖堂を読み解く」

13:35 - 13:55 河江 肖剰 高等研究院准教授
「三次元計測に基づいたピラミッドにおける身体性の再建」

13:55 - 14:05 休憩

14:05 - 14:25 戸田 智基 情報基盤センター教授
「音を聴き分けて状況を判断する技術」

14:25 - 14:45 藤井 慶輔 情報学研究科准教授
「生体集団運動における科学的知識と機械学習の融合による理解」

14:45 - 14:55 中間総評 松尾 清一 総長

14:55 - 15:20 総合討論
15:20 - 15:30 閉会挨拶 周藤 芳幸 高等研究院院長



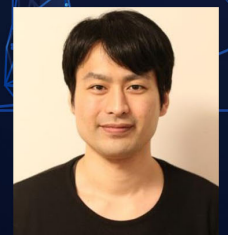
樋口諒



河江肖剰



戸田智基



藤井慶輔

参加申し込みはこちら



第2回イニシアティブウェビナー発表者：



樋口 諒（名古屋大学高等研究院）

慶應義塾大学環境情報学部および東京工業大学大学院総合理工学研究所人間環境システム専攻で建築学を学び、途中トルコ・中東工科大学、オーストリア・ウィーン大学での留学を経て、2018年に博士（工学）を取得。その後日本学術振興会特別研究員（PD）を経て、2021年より現職。専門は建築史。特にかつて地中海の東側沿岸に存在したビザンティン帝国の教会建築を研究対象とし、その時代的变化や地域的な違いに焦点を充てつつ、建築家が存在しない時代の建築が職人らによってどのようにつくられていたのか、また当時の社会において教会がいかなる役割を担っていたのかについて明らかにすることを目指している。



河江 肖 剌（名古屋大学高等研究院）

1992年から2008年までエジプト在住。カイロ・アメリカン大学エジプト学科卒業。ギザのピラミッド時代の都市遺構である『ピラミッド・タウン』の国際発掘調査の区画責任者として従事。2012年、3D計測を用いたエジプトの巨石建造物の研究によって名古屋大学より博士号取得（歴史学）。日本学術振興会特別研究員（RPD）、名古屋大学文学研究科附属CHT共同研究員を経て現職。米国 National Geographic Emerging Explorersに選出。イタリア International Giuseppe Sciacca Award 受賞など受賞。現在、メンフィス地区のピラミッドを中心とした巨石建造物の3D計測調査を推進。



戸田 智 基（名古屋大学情報基盤センター）

1999年名古屋大学工学部電気電子・情報工学科卒業。2003年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了、博士（工学）。同年、日本学術振興会特別研究員-PD、2005年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助手、2007年同助教、2011年同准教授を経て、2015年名古屋大学情報基盤センター教授。音声、音楽、環境音などを対象とした音メディア情報処理の研究に従事。IEEE SPS 2009 Young Author Best Paper Award、The 2013 EURASIP-ISCA Best Paper Award、2015年度文部科学大臣表彰若手科学者賞など受賞。



藤井 慶 輔（名古屋大学大学院情報学研究科）

京都大学総合人間学部および同大学院人間・環境学研究科にて学び、2014年博士号取得。日本学術振興会特別研究員PD（名古屋大学）、理化学研究所革新知能統合研究センター研究員、名古屋大学大学院情報学研究科助教を経て、2021年より現在に至る。理化学研究所革新知能統合研究センター客員研究員と科学技術振興機構さきがけ研究者も兼任。主にスポーツなどの身体集団運動のような複雑な時系列データを扱う機械学習の研究、および実世界の集団運動の科学的原理を明らかにするための、科学的知識と機械学習の融合に関する研究を行っている。